

富山

インドネシアのハシムさんら招き

環境保護・教育シンポ

富山大



インドネシアでの環境教育への支援を呼びかけるファディラ・ハシムさん(左)＝富山市五福の富山大で

ら4人が富山を訪れ、富山市のエコタウンや魚津市の小水力発電などを見学した。
この日は同大大学院OBで同国技術評価院用庁のファディラ・ハシムさんや野平教授らが講演。ハシムさんは

「インドネシアでは環境教育がようやく始まったばかりで、これからも広く協力してほしい」と呼びかけた。野平教授は「ゴミを分別しリサイクルすることで、衛生、教育環境の改善を図れるような仕組み作りが目的。そのためには子どもへの教育が重要」と話している。
【青山郁子】

インドネシアでの環境保護と環境教育を考
えようと「日本・インドネシア環境シンポジウム」が5日、富山市五福の富山大で開かれた。同大人間発達科学部と共同し同国で教育支援をしている富山市のNGOインドネシア教育振興会(IEPF、窪木靖信代表)が環境教育教材開発の一環として、現地から関係者を招へいした。
インドネシアでは農地開発のための森林伐採やゴミ問題が深刻化。極端な水不足や洪

水などもあり、環境への関心が高まっている。IEPFは環境教育支援として「3R運動」についての読本を昨年2000部作成。現地の小中学校に寄付した。
今回は地球環境基金の助成を受け、より分かりやすい教材開発を企画。両国の教育、行政関係者らで委員会を設置。5、6月に南タングラング市の実態を調査。9月には窪木代表や野平慎二教授らが現地を訪れ意見交換した。今月1日に現地か